

医学部医学科・医学研究科自己点検評価書

平成 29 年度

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準 4 学生の受入 4-1 入学者受入方針 （アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	○アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜するために、平成 26 年度入学者選抜から前・後期日程で 2 段階選抜、面接試験を取り入れており、推薦入試、私費外国人入試を含めすべての入学者選抜において面接試験を実施している。【資料 1】地域医療に貢献することを目的に、平成 27 年度入試から地域枠推薦入試の入学定員を 3 名増員し 28 名としている。 ○将来を担う人材を幅広く確保するため、平成 27 年度大学院入試から学力試験科目（外国語（英語））において、TOEIC のスコア又は TOEFL のスコアを提出することにより、外国語（英語）試験に換算できるように試験方法を増やした。【資料 2-1】また、平成 29 年度より大学院入試（秋季入学）を 6 月に実施した。【資料 2-2】（大学院課程） ○医学部医学科の入学者数は、平成 28・29・30 年度は入学定員の 1.00 倍となっており、適正である。また、平成 30 年度私費外国人留学生特別入試により入学定員外で 1 名入学した。 ○医科学専攻、再生医科学専攻を合わせた定員充足率については、平成 30 年度は 43.4%であった。【資料 3】 <新たな取り組み等> ○一般入試の募集人員を後期日程にシフトしてから 12 年が経過したが、平成 29 年度で終了する予定であった地域枠暫定定員増（15 名）が 2 年間延長（平成 31 年度）されたため、各入試区分の募集人員については引き続き検討することとしている。【資料 4】	平成 30 年度入学者選抜に関する要項（抜粋） 【資料 1】 大学院募集要項（TOEIC、TOEFL 部分抜粋） 【資料 2-1】 秋季入学募集要項（抜粋） 【資料 2-2】 選抜概況（大学院）医学系研究科 H30 【資料 3】 医学部の収容定員の増加について（通知） 【資料 4】	医学部医学科の取り組みを示すポンチ絵（公表用 1 枚）
基準 5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	○初年次教育では、「医学英語」における TOEFL の成績利用、「初期体験実習」「地域体験実習」における事前・事後指導とレポートやプレゼンテーション、e-ポートフォリオを活用している。 ○PBL テュートリアル教育とクリニカル・クラークシップ（参加型臨床実習）を教育方法の根幹に据え、能動的に自ら学ぶ姿勢を身に着け、判断力・分析力・問題解決力等の真の実践力を身に付けられるカリキュラムとしている。 ○平成 28 年度から臨床実習ポートフォリオの正式運用を開始した。ポートフォリオでは、獲得すべき臨床能力に対する学生の自己評価・患者経験・臨床スキルの経験・ふりかえり・指導医評価（診察能力、実技など）・出席状況などを設け、指導医からのフィードバック記載を要請している。 ○平成 26 年度から博士課程の学生に対する英語教育で基礎から臨床まで、幅広く最新の医学研究に触れることを目的に、大学院講義「ADAMS」を開講し、より多くの関係者（大学院学生、将来大学院進学を希望する学部学生、MD-PHD コース等）も受講することができるよう整備している。 【資料 5】（大学院課程） <新たな取り組み等> ○学内臨床実習後に、臨床実習ポートフォリオ審査会を開催し、記載内容の評価を行った。 【資料 6】	医学部医学科授業案内（上・下） 臨床実習ポートフォリオ H29 年度 ADAMS シラバス 【資料 5】 臨床実習ポートフォリオ評価用ルーブリック 【資料 6】	

基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	○5年次から6年次への進級を除く、すべての学年の年度末に進級判定を行っている。加えて、臨床実習前には共用試験（CBT：Computer Based Testing、OSCE：客観的臨床能力試験）、選択臨床実習後には卒業試験をそれぞれ課し、学習成果を繰り返し確認している。 ＜新たな取り組み等＞ ○平成30年度からの共用試験（CBT・OSCE）について、全国の状況を調査したうえで、合格基準を引き上げ、取扱要項を制定した。【資料7】 ○平成28年度医師国家試験の新卒合格率は88.2%と全国平均を下回る低調な結果で、合格率を向上させる取り組みが喫緊の課題となったため、教務厚生委員会の下に「国家試験対策作業部会」を立ち上げた。卒業試験の形式を国家試験に準じた形式への変更、高リスク学生を対象とした教務厚生委員長の面談、卒業試験の日程短縮による国試対策時間の確保など、対策を実施した結果、平成29年度医師国家試験の新卒合格率が昨年の88.2%から95.3%へ上昇し、全国平均を上回った。【資料8】 ○診療科毎に実施している卒業試験を、平成30年度からは国家試験に準じた統合型の卒業試験に変更するため、教務厚生委員会の下に「統合試験部会」を立ち上げ、実施スケジュール、問題作成マニュアル、問題配分数などを決定した。【資料9】 ○医学教育IR室において、平成28年度卒業生に対してアウトカムとカリキュラムに関するアンケートを実施し、解析を行った。病態の理解、コミュニケーション、倫理観と省察力などは比較的高い自己評価が得られたが、診断・マネジメントに関する臨床能力は低めで、臨床教育の更なる充実が必要と考えられる。【資料10】	岐阜大学医学部医学科における臨床実習資格判定並びに共用試験CBT及びOSCEに関する取扱要項 【資料7】 医師国家試験合格状況 【資料8】 統合試験実施体制組織図 【資料9】 卒業生アンケート 【資料10】	
基準8 教育の内部質保証システム 8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	○IR担当教員を構成員とした医学教育IR室を平成28年12月に正式に設置した。本IR室では共用試験、臨床実習評価、卒業試験、CBTと各分野筆記試験の関係、卒業後の進路と背景、学業不振者などを分析中であり、今後教育内容に適合した評価法の開発につなげたい。【資料11】【資料12】 ○初心者向けテューターFDを継続して実施した。【資料13】 ○学生によるテュトリアル・コース評価と、担当教員へのフィードバックを継続して実施した。【資料14】 ○附属病院医師及び実習協力病院医師を対象とした臨床実習指導医FDを、附属病院医師育成推進センターと連携して、継続実施した。【資料15】 ＜新たな取り組み等＞ ○国際基準に対応した医学教育分野別評価（トライアル）を平成27年度に受審した。外部評価報告書の「改善のための助言・示唆」を受けて、改善事項に対する取り組みを行い、平成29年5月の改善報告書提出を経て、本学医学部医学科が国際基準に適合していることが認定された。認定期間は、2017年4月1日～2023年3月31日まで。【資料16】 ○現行のテュトリアル教育の在り方と見直しを検討するため、教務厚生委員会の下に「テュトリアル教育改善対策作業部会」を立ち上げた。まずは教員及び学生に対してテュトリアル教育についてのアンケートを行い、その結果を踏まえて議論を始めることとした。【資料17】	医学教育IR室細則 【資料11】 第1回医学教育IR室会議資料 【資料12】 初心者向けテューター研修会（FD）開催通知 【資料13】 学生によるコース及びテューター評価用紙集計 【資料14】 選択臨床実習FD開催通知 【資料15】 医学教育分野別評価認定証 【資料16】 第1回テュトリアル教育改善対策作業部会記録 【資料17】	

医学部医学科の取組み(認証評価対応自己点検評価書)

2017年度
(平成29年度)

【学生の受入】

入学者選抜の改善

《平成28年度まで》

- 前・後期日程の2段階選抜・面接試験実施
(H26年度入試方法を継続)
- 地域枠推薦入学定員増員
(H27年度入試 25⇒28)

○評価できること

- ・すべての選抜区分で面接試験を実施
- ・適正な入学者数
H28・29・30年度:1.00倍
- ・地域医療への貢献

△検討事項

- ・各選抜区分募集人員の見直し

《平成29年度》

- 暫定定員(15名)が2年間延長(平成31年度)された

今後の検討事項

- ・各入試区分募集人員の見直し。
- ・平成33年度入試から始まる大学入学者選抜改革への対応

【教育内容及び方法】

単位の実質化

《平成28年度まで》

- PBLテュートリアルとクリニカル・クラークシップ(参加型臨床実習)
- 初年次教育におけるTOEFLの活用
- 初期実習における事前・事後教育とe-ポートフォリオの活用
- 臨床実習ポートフォリオの運用

○評価できること

- ・知識・技能の修得にとどまらない自ら学ぶ姿勢の教育
- ・臨床実習の充実
(ポートフォリオの活用)

《平成29年度》

- 学内臨床実習後に、臨床実習ポートフォリオ審査会を開催し、記載内容の評価

- ・学生の記載内容の充実
- ・教員のフィードバック内容の向上

【学習成果】

学習成果の向上

《平成28年度まで》

- 5→6年次を除くすべての学年で進級判定
- 臨床実習前(4年次)に全国共通のCBT(知識)、OSCE(実技)試験
- 4～5年次1年間の学内臨床実習後の臨床能力を量るAdvanced OSCEの実施
- 21科目を課す総括試験の実施

○評価できること

- ・各年次における学習成果の確認
- ・学内の基準によらず、全国共通の基準で能力を測る
- ・新たな臨床能力試験の導入とフィードバック

《平成29年度》

- 共用試験(CBT・OSCE)について、合格基準を引き上げ、取扱要項を制定
- 国家試験対策作業部会を立ち上げ、国家試験対策を講じ、新卒合格率が向上
- 統合試験部会を立ち上げ、平成30年度から卒業試験を統合型試験に変更
- 医学教育IR室において、卒業生アンケートを実施

【教育の内部質保証システム】

教育の質の改善

《平成28年度まで》

- 学生が各テュートリアルコースを評価し、その結果をコース担当教員へフィードバック
- テューター経験の浅い教員に対するFD
- 附属病院だけでなく、実習協力病院も対象とした指導医に対する臨床実習FD
- 医学教育IR室の設置
- 医学教育分野別評価(トライアル)の受審

○評価できること

- ・充実したFD内容
- ・医学教育IR室の設置
- ・医学教育分野別評価(トライアル)受審とその後の改善

《平成29年度》

- 医学教育分野別評価において、本学医学部医学科が国際基準に適合していることが認定された
- テュートリアル教育改善対策作業部会を立ち上げ、現行のテュートリアル教育の在り方と見直しの検討を開始